

開心
靜聽
充滿
獻身
奉仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬季号

日本アシュラム

Winter 1981

United Christian Ashrams of Japan

34



感謝！

恵み溢れた二五周年記念の

日本クリスチャン・アシュラム

ジョーンズ博士がアシュラム祈祷生活をわが国で初めて紹介されてから二五年になるのを記念して感謝のアシュラムが全国的協賛の下に去る十一月二四日から御殿場の東山荘で守られた。

参加者は百名を越え、病躯をおして大阪から駆けつけた中路副理事長の説教による開会礼拝から靈潮は高まり初めた。

渕江理事の司会で開心の時に入ると、次々に各自のニードが明渡され、祈りが続いた。いよ／＼今回のためインドから来援されたタイタス師によるメッセージ

『コイノニヤに就て』（次頁掲載）が力強く与えられた。殊に最後の日本の教会に関する一言は一同の耳に痛く響いた。

夕食後、海老沢理事長が十月にアシュラム発祥地サトタルの五十年祭に参加した時のスライドを映写され、一同ジョーンズ博士の遺業と召天の地を偲んだ。夜は十組の祈りの細胞に分れて更に開心と祈りの時を持ち、連鎖祈祷に続いた。

第二日午前六時起床、宇都宮理事の司会で静聴の時を守り朝食後、福音の時には後宮理事により『信仰と実践』について教団議長でもある同師から福音的メッセージを聞いたことは感謝である。

続いての祈りの細胞は初の試みとして

教職、壮年、婦人、青年男女の四組に別れて分ち合いの時とした。昼食後、大石理事の司会で二五周年記念式とファミリーアワーを持ち、全国各地の活動報告を聞く。夕刻三回目の細胞に分れて再び各自が主との交わりを深められた。夕食後は井本富三郎兄がインド旅行を八ミリで映写し、続いて西村笑子姉と共に信仰の証しをされた。

海老沢師の讚美歌指導のあと宣教の時としてタイタス師の二回目のメッセージ『神の国』が力強く説かれた。今までこれ程明解に神の国を示されたことはないと思う者が感謝しての祈りがいつまでも続いた。その後、希望者のためタイタス師に海老沢、志村、渕江が協力して医しの時を持ち多くの人が新しくされた。第二夜の連鎖祈祷が続く。

第三日の朝、静聴に続いて満丸茂師の司会で厳かに聖餐式が守られ、十字架の贖罪にしっかりと与かることができた。朝食後、牛島兄の司会でタイタス師の三回目のメッセージ『主の二大誠命』が説き明され、イエスを主とする者の使命を強く自覚せしめられた。次で最後の充滿の時が海老沢理事長の司会の下に進められ、聖書により主との靈交が深められ、黙想の時、祈りの時、聖霊を受ける時が持たれ、一同輪になり腕を組み、アシュラムの歌をうたい、聖歌『いづくまでも行かん。愛する主のあとを』を声高らかに唱和して全日程を恵み溢るる感激のうちに終了すことができた。

発行人 大石 嗣郎
定価 一部 50円 二部 50円

運送は船主の責任により、常により新しい家族（）に参加を期待している。

聖書の時(第一回講話)

愛と善行に努めよう

—アシュラムの交わりに就て—

D・P・タイタス師

二年前に回際アシュラムがこの東山荘で開かれた時に来ましたが、今回は日本の二五年記念に招かれて、皆様と再びお交わりができることを感謝しています。アシュラム運動によってこのような交わりが世界的に広がって行くことでしようインド殊にサトタルのアシュラムからお祝いの御挨拶を申し上げます。

サトタルでは去る十月に五十年を記念しましたが、日本から海老沢先生初め七名の代表が参加して頂き、非常に良い印象を残して下さったことを感謝しています。私たちはいつまでも忘れません。共にスタンレー・ジョーンズのことを思い起して、あの燃える信仰をもって福音を世界に伝えた働きを偲びました。またここで二五年の記念聖会が開かれていることは欧米各国のアシュラム同志も覚えて祈っていただけることを信じます。

の動詞の意味はそのように拡がります。この努めをするためには、どうしたらよいかの答えが次の二五節です。互に集まり顔を合せることです。集会をやめないことです。私は数年前までこれは日曜日に会うことと思っていました。聖書をよく見ると初代信徒は毎日どこかの信者の家に集まって交わりを深めていたことが判ります。

コイノーニヤというギリシヤ語は交わりのことですが、それは更に分ち合いの意味します。互に知り合い、愛し合い、祈りの思い、あらゆる関心事を分ち合い世話をし合い、共に仕え合い、互に属し合い、教え合い、学び合うのです。これがクリスチャンの交わりです。主イエスが説かれたこのような交わりが、アシュラムの中で再び体験されるようになった



ことは何と幸いなことでしよう。

アシュラムとはインド語で退修を意味します。会場は成べく美しい静かな所を選びます。ヒンズー教は古くからアシュラムを守っていますが、クリスチャンのアシュラムは彼らのような儀式的なことはいしません。簡素な生活でリーダーも参加者も食糧の買出しから調理を分担し、床に坐って何時間でも神の前に沈黙して瞑想をします。全員はリーダーに柔順に従いますが、お互には平等です。参加者はそこから世界の伝道に派遣されて行きます。これは主イエスがガリラヤで弟子たちを訓練されたことに倣っています。

アシュラムが拡がる理由はこの最初のガリラヤ・アシュラムに似ているからでしょう。

神から与えられた最も大切な賜ものはイエス・キリストと聖霊とコイノーニヤです。この霊の交わりが現代に最も欠けたもので必要なものです。教会内においてもこの霊交が破られています。彼らも知っている交わりは日曜日に週一回集まることです。所が私は今までに二つの大教会の教会に当りましたが、毎日曜日礼拝に出るのは全会員の五%です。あとの九五%は交代でたまに出席するだけです。から、どんな信者としての交わりをしていくことでしようか。また五%の人々でも週一回では真に心の明渡しはできないと思います。礼拝は牧師により司式され、個人の証しも明渡しもありません。礼拝後に牧師と握手してさようならです。ある教会で自分の後ろに坐っている人、前

好評 (残部僅少)

海老沢宣道著

アシュラムの原則と実際

定価300円 760円

アシュラムの創始者・故スタンレー・ジョーンズ博士の直伝を受けた著者が、平易に解説し今回小冊子にまとめられた。参考書として活用されたい。

日本アシュラム編集部

177 東京都練馬区三原台1-18-1 海老沢方

席の人を知っているかと聞きましたら、ほんとうに少しでした。教会内の交わりもこれでは不十分です。ある人は誰も私のことを心にかけないし、私も人のことを気にかけないと言いましたが、これは問題です。交わりの危機ではありませぬか。

インドでは交わりが強められつつあります。ギデオン会、各大学に学生伝道隊が生れ、家族ぐるみの集まりも計画されています。その他様々な運動の中でアシュラムが交わりのために大きな貢献をしています。この二五年の記念聖会に牧師方が参加し各教会の交わりのため祈りを一つにしていることは感謝に耐えませぬ。アシュラムが世界中に拡がることを願います。現在米国には五〇の単位がある

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

り、カナダに十二、カリビヤ海諸島に七、北欧各国に二〇〇程、インドではサトタルを初め、少数ですが、主要の州には単位が生れつつあります。主イエスの初められた交わりだから必ず全世界に拡大すると思えます。

私共の五〇年記念には多くの牧師、大学教授、高教会(カトリック、聖公会)からも集まりました。四十才の牧師は自分の教会に帰り、サトタルの体験を語って、次の日曜日から三時間アシュラムを始めたとの事です。皆が床に坐して大司教も助祭も信徒も平等に互に心を開いて明渡し、主の御声に聴くことのすばらしさを経験したのです。二人の神学生は夫々の神学校に帰ってアシュラムを始めました。メソジスト派の牧師も自分の教会で始めたと手紙をくれました。これはどこまでも拡がって行くものです。

互に愛し合う。愛と善行を励むこと。教会に帰って互に交わりを振起すことは私たちの使命です。これによって世界宣教は強められ、人種も言語も年令も学位も、牧師信徒の別も、親子の別もなく共に心を開き、交わりを回復することができます。日本のアシュラムは如何ですか。二五節にあるように「かの日が近づいていきます」。時の流れは急速です。世界は混乱しています。時が無いので今すぐに交わりを作るために起上らねばなりません。この靈交こそ教会を新しくするために大切なものです。この記念の年にぜひ皆様が決心して多くの人をこの交わりに入れて頂きたい。日本に来る前に読

んだものに、日本は急速な進歩をしているが、遅いものが二つある。一つは須磨姉がサトタルで見せて下さった茶道などの芸術が静かにゆっくり行われること、今一つは教会の成長の遅いことである。これは交わりの発展が遅いためではないか。主が日本のアシュラムを祝福して下さるように。アーメン。

アシュラム発祥の地

サト・タルを訪ねて(一)

海老沢 宣 道

サトタル・アシュラムの五十年を祝し同地で第四回国際アシュラムを開くことになり、日本から七名(宅都宮充、測江淳一、志村卯三郎、大石嗣郎、井本富三郎、小生夫婦)が参加した。去る十月七日成田を発ち夜半にニューデリーに到着ホテルに宿泊、翌日は市内見物、九日早朝から一日中ハイヤー二台を駆る。中食はマラバードのメソジスト教会でとり途中スコールに遇い一村落の茶店で小休止、インド風紅茶を喫す。夕刻やっとヒマラヤ山腹のメラゴン(六千呎)に着く。タイタス師がジープで迎えて下さる。そこからサトタルまでは細い砂利道で断崖の下を通るので、バスやハイヤーは入れないと言う。さすがにひどい道でひやひやする。ジョーンズ師がよくこんな所に入られたものと思う。やがてサトタル・アシュラムと書かれたアーチが見え、緑の森と湖の美しい風景の中に小さな建物が十数軒も点々と見えてきた。サトタル

とは七つの湖という意だそうだ。昔英国の茶産地であり、外人の避暑地であったというだけに、インドとしては涼しい所だ。ジョーンズ師はこの広大な野山をその英国実業家から特別価格で譲渡されたという。

宿泊は森の中に点在する山小屋に分宿、電気が来ていたので思ったより不便はなかった。大きなかまどで材木で煮たきた夕食を近年新築した博士記念館の食堂で頂く。その後、いよいよ第四回国際アシュラムが始まり、マシューズ師の司会で五十年祝賀式あり、タイタス師の歓迎の辞とオリエンテーション、小生日本を代表して祝辞を述べると美しい記念の首飾りが外来者一同にかけられ、夕べの折りで第一夜の寝につく。三泊四日のアシュラムについては更に次号で述べよう。

二五年記念

アシュラムの感謝

四国地区長 宇都宮 充

去る十一月東山荘で開かれた二五年記念アシュラムは百七名が参集され極めて靈的で恩寵豊かな聖会であった事を心から感謝しておる。出席者の三分の一が教職で而も若い人が多かったのは一つの驚きであった。宗教界その他の職場と言わず組織と自己とのチレンマから自己の主体性を聖言と靈的なアシュラムにより再発見しようとする求めのためではあるまいか。いかにハウツーの方策を教えられ

- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

ても自己を忘れた空虚さがある限り本物ではあり得ない。アシュラム精神の拡大高揚を望みたい。

感謝と反省

関東地区 満 丸 茂

感謝、讚美 アシュラムの五大原則は福音の本質、中心をついている。今回の第25回日本アシュラムは、聖霊の御導きと、御支えにより、この五大原則が十分に生かされていた。特に聖霊の充満した集会であった。D・Pタイタス師には感謝の言葉は無い位である。只感謝、満足一杯だった。

反省 非常に充実した、素晴らしいアシュラムだっただけに、せめて15名出席しこの恵みにあづかったら、もっと幸であったと思う。

二つの感謝

連盟総務 大石 嗣 郎

今回S・ジョーンズ印度アシュラム五十年祭と日本アシュラム二十五年祭とが一ヶ月の間を置かずに行われたことにより、アシュラムの意義と歴史を今までに深く考えることが出来て感謝している。アシュラム発祥地のサツタルとかつて第三回国際アシュラムの行われた同じ東山荘とに参加してみて亡きジョーンズ博士の遺業の偉大さを眼のあたりに今更の如く再認識した。このアシュラムを限られた少数のものに留めることなく多くの兄弟にその恵みをわかち合って行きたいものである。

札幌アシュラムに

参加して

大滝嘉晃

期待と不安を思いつつ第一回札幌アシュラムを待ち望み、妻と共に集えた喜びと感謝は一口に言い現わせませんが、集えなかった方々に、あの感激を味わせて上げたいものだと思います。

「イエスは主である。実に主は甦えられた」。主の御名を讃美いたします。祈りに就て更に一段と認識が深められました。人前で自分の考えを述べる勇氣もたされ、口を開く事ができた事も感謝です。無言の祈りも学びました。祈りの細胞では祈りのニードが打ち明けられ、どこで折られているのか判らないが、皆が折ってくれている事を覚え、神は祈りを聞いて下さる方である事を知りました。お互いのニードを知り、悩みの形は違っても、みなそれぞれ同じなのだと思えました。

神様に自分を明け渡す(サレンダー)というタイトラス先生のお話は心に残るものです。お金や時間、行ないによらないで、神様に全てをお委ねできたら、わが世界がどんなに広がるだろうと思われしました。目の不自由な私共は愛うつてひがみ易くなります。人の手を借りなければ国外は勿論、少し離れた所へも行けません。すぐに人にすがりたくありません。それもかなわないと、つまらなさを感じます。もし生命の泉があるならば、わが

家にそれをと祈りたくなくなります。

このアシュラムでは見るもの聞くもの全てが新しく、さわやかな経験でした。そして日頃は病氣の人をお世話していましたが、イエス様に導いて頂いて、教会のために何かお役に立ちたいと心新たに真剣に思いました。また御言を通して神様は全てを備えるお方であり(エペソ二一〇)悩める者きたれと呼んでおられることを深く感じました。(点字文より)

日本アシュラム二五年記念 感謝献金報告

前号には記念アシュラムの開催前に早くもお寄せ下さった献金を報告しましたが、引続いて全国から続々とお捧げ頂き感謝に耐えません。ここに芳名を記して心から御礼申し上げます(総務局)

- ▽二十万五千元 深谷教会
- ▽二十万円 関西地区アシュラム
- ▽一三七、五六〇円 充滿の席上献金
- ▽九万円 札幌地区アシュラム
- ▽五二、九五〇円 開会礼拝献金
- ▽五万円 横山義孝、西成教会(各)
- ▽四一、五〇五円 東京城北アシュラム
- ▽二九、一〇六円 西川口教会
- ▽二万円 三室泰平、井本富三郎、京都復興教会、中路嶋雄、桃谷教会(各)
- ▽一万五千元 香炉園教会、安藤主雄
- ▽一万四千元 志村卯三郎
- ▽一万円 宇都宮充、宇都宮美江、小松

川教会、成瀬南伝道所、淡路久男、矢島あさの、草村美、道南アシュラム、桑山梅子、今井寿、高瀬和子、牛島信義、松原向、林勝義(十四口)

▽九千元 成田典子
▽五千元 保母幸子、柳川のぶ子、平岡とみ、佐藤熊与、清池サカエ、中山直良、熊美枝子、竹見台教会、家司三従子、寺田高義、大谷松枝、岩波貞子、中野義郎、松井朝子(十四口)

▽三千元 清水 姉、渡辺実千代、千葉南教会、竹村淑子、本杉啓子、高橋トキ(六口)

▽二千元 西村笑子、滝川英子、大柴俊和、吉田清江、折田政博、三井明、遠藤絵子、一光印刷所(八口)
▽一千元 金子益雄、平野菜、古田正子 望月武雄(四口)

(前回との合計 一、六八八、五八一円)

地区だより

◎第十二回東京城北アシュラム

二月十一日(水) 祝日午前九時半から午後五時まで、中野区若宮町二ノ一、更生教会にて、主題「わたしの顔を求めなさい」の下開かれる。会費一千元。島、神山、松田、渕江、海老沢の講師が奉仕に当る。多数参加を歓迎。

◎東京城西アシュラム

例年四月二十九日の祝日に開催していたが、今年には講師の都合で夏期になってか

ら開く予定。問合せは小金井市東町二ノ一四、東小金井教会渕江淳一牧師です。

◎第二〇回関東地区アシュラム

昨年度は二五年記念日本アシュラムに合流したが、今年には地区で来る十月十日を中心に開く予定。御加禱下さい。

◎関西地区アシュラム

同様に今年には地区で来る十一月二三日を中心に開く予定。御加禱下さい。

D・P・タイトラス著
**英文『神の国を
来らせ給え』**
B6判本文二四頁 価百円下別
申込先 日本アシュラム連盟総務局

**アシュラム生活の生んだ
『ヨハネ福音書講説』**
日本アシュラム 淵江淳一著
連盟理事
B6版上製 三八〇〇円
四七〇頁 千三〇〇円

アシュラム人必読の書
〒162 東京都新宿区若松町12
おとずれ社
電話 〇三(三五九)九五三九
振替 東京 三一(二一九五)
全国のキリスト教書店にてお買い求め下さい。

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
碑文谷教会会付

▼アシュラムとは故スタンレー
取り入れて創始されたキリスト

ンズ博士がインドの退修方式を
しい祈禱生活のことである。